

平成31年度 年間授業計画

東京都立蒲田高等学校

教科・科目	家庭・家庭総合 必修	2単位	対象学年・組	1学年全クラス
教科書	家庭総合（東京書籍）	教科担任	大類まり子・稲田恵子・細谷京子	

1 目 標

- ・ 人の一生を見据えながら自分の人生を考え、生活観を獲得し、精神的自立を目指す。グループ学習をしながら、コミュニケーション能力を養う。
- 2 学習の到達目標
- ・ 授業の課題をこなし、学習目標を達成できるよう授業に取り組む。
- 3 学習内容と学習上の留意点
- 1クラス2展開で実施（出席番号で、前半クラス・後半クラスで分割）

◎前半クラス

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	衣生活をつくる	2 6	よりよい衣生活を創造する衣服をつくろう	集中して作業に取り組む。手作りの良さを知る。
二学期	自分らしく生きる 家族とかかわって生きる 消費行動を考える	2 8	自分を見つめる 家族って何だろう 家族と法律 主体的な消費行動 消費者の権利と責任	自己分析をするとともに、家庭総合の学習における目標を持つ。時代とともに変わる家族のかたちを考え、その問題点をさぐる。複雑化する消費生活を認識する。
三学期	衣生活をつくる 社会とかかわって生きる	1 6	実習を行う 人と衣服のかかわり 私たちの衣生活 衣服は何からできているのか 支えあう暮らしとは	実習を通して、科学的な視点で衣服を考える。 社会で支え合っている仕組みを学び、自分にできることを考える。

◎後半クラス

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	自分らしく生きる 家族とかかわって生きる 消費行動を考える	2 8	自分を見つめる 家族って何だろう 家族と法律 主体的な消費行動 消費者の権利と責任	自己分析をするとともに、家庭総合の学習における目標を持つ。時代とともに変わる家族のかたちを考え、その問題点をさぐる。複雑化する消費生活を認識する。
二学期	衣生活をつくる	2 6	よりよい衣生活を創造する衣服をつくろう	集中して作業に取り組む。手作りの良さを知る。
三学期	衣生活をつくる 社会とかかわって生きる	1 6	実習を行う 人と衣服のかかわり 私たちの衣生活 衣服は何からできているのか 支えあう暮らしとは	実習を通して、科学的な視点で衣服を考える。 社会で支え合っている仕組みを学び、自分にできることを考える。

4 学習方法と生徒への注意

- ・ 教員による講義・グループ学習や被服実習及び実験実習に取り組む。
- ・ 各授業において、集中力を持って取り組み、学習目標を達成できるように努力する。

5 評価の観点・方法

- ・ 欠席遅刻
- ・ 課題への取り組み、提出期限
- ・ 授業態度

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
			○	○		○			

教科・科目	家庭・家庭総合 必修	2単位	対象学年・組	2学年全クラス
教科書	家庭総合（東京書籍）	教科担任	瀧島嘉代子・大類まり子・稲田恵子・細谷京子	

1 目 標

- ・ 人との関わりあいを通して自分をみつめ、自立と自律を目指し、自らの生活をデザインする力を身につける。

2 学習の到達目標

- ・ 家庭生活における基礎・基本の知識と技術の習得。
- ・ 目標達成に向かって、各単元の課題に取り組む。

3 学習内容と学習上の留意点

1クラス2展開で実施（出席番号で、前半クラス・後半クラスで分割）

◎前半クラス

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	食生活をつくる	2 6	人と食物のかかわり 栄養と食品のかかわり 食品の選び方と安全 食生活をデザインする	食事内容の選択における自己管理能力を身につける。 実習を通して、基本的な知識と技術の習得を目指す。
二 学 期	子どもとかかわって生きる 高齢者とかかわって生きる	2 8	生命の誕生 心身の豊かな発達 子どもの生活を知る 高齢社会に生きる私たちの暮らし	思春期の心と体の健康を目指すとともに、生命の誕生と子どもの発達について考える。 高齢者の生活を理解するとともに、高齢社会の中で支えあって暮らすことについて考える。
三 学 期	住生活をつくる 環境	1 6	人と住まいのかかわり 快適な住まいづくり 健康的で安全な住まい環境 これからの地球環境	住生活における自立を目指し、これからの自分の生活をデザインする。 環境負荷の少ないライフスタイルを実践する。

◎後半クラス

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	子どもとかかわって生きる 高齢者とかかわって生きる	2 8	生命の誕生 心身の豊かな発達 子どもの生活を知る 高齢社会に生きる私たちの暮らし	思春期の心と体の健康を目指すとともに、生命の誕生と子どもの発達について考える。 高齢者の生活を理解するとともに、高齢社会の中で支えあって暮らすことについて考える。
二 学 期	食生活をつくる	2 6	人と食物のかかわり 栄養と食品のかかわり 食品の選び方と安全 食生活をデザインする	食事内容の選択における自己管理能力を身につける。 実習を通して、基本的な知識と技術の習得を目指す。
三 学 期	環境 住生活をつくる	1 6	これからの地球環境 人と住まいのかかわり 快適な住まいづくり 健康的で安全な住まい環境	環境負荷の少ないライフスタイルを実践する。 住生活における自立を目指し、これからの自分の生活をデザインする。

4 学習方法と生徒への注意

- ・ 教員による講義・グループ学習による調理及び実験実習に取り組む
- ・ 各授業において、集中力を持って取り組み、学習目標を達成できるように努力する。

5 評価の観点・方法

出席状況、課題への取り組み・授業態度、提出物の期限内の提出と内容、小テスト

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
			○	○		○			

教科・科目	家庭・フードデザイン 選択	2単位	対象学年・組	3年 選択
教科書	フードデザイン (教育図書)	教科担任	瀧島嘉代子	

1 目標 基礎科目における学習を基にして、食生活に関する基本的な知識と技術を身につけ、食事を総合的にデザインできるようにする。

- 2 学習到達目標
- ①食事の意義・役割、栄養や食品、調理手法、料理様式・テーブルコーディネートなどの知識を習得する。
 - ②食生活を支え援助する技能を身につける
 - ③食に関するニュースに関心を持ち、自分との関わりを考える

3 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前期	食事の意義と役割 調理の基本	12	食事の役割 調理の目的 食物調理技術検定の実施 行事食1	望ましい食習慣や知識を習得する。 計量や包丁の基礎的な技術を修得する
	後期	栄養素のはたらきと食事計画	14	ライフステージと食事 行事食2	年齢、体調、季節などいろいろな場面での献立を考える 食育について理解を深める
2 学期	前期	食品の特徴	14	食品衛生 行事食3	食中毒予防と旬の大切さを学び、実践する
	後期	料理様式とテーブルコーディネート	16	テーブルセッティング 行事食4	もてなしの心を学ぶ 旬の大切さを学ぶ
3 学期		フードデザイン実習	14	「食」に関する情報 行事食のまとめ	自分なりの考えを持って討論に参加し、問題の解決を目指して自分ができることを考えさせる。

4 学習方法と生徒への注意

- 授業時間ごとにワークシートの記入
 - 食に関する新聞記事などの事例についてディスカッション、意見の記述
- ※以上の項目を箇条書きで表示しておく

5 評価の観点・方法

出席状況・授業態度・提出物を総合的に判断する

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
			○	○		○			